□加藤僖重：**牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション** 288 pp. 2003. ￥5,400. A 5 版. 思文閣. ISBN: 4-7842-1165-9.

シーボルトが日本で収集した標本は，彼の死後マキシモヴィッチが購入し，後にコマロフ研究所の所蔵となっていたが，牧野標本館の水島正美氏の努力により，タカジャン博士からその一部約2,500点が標本館に寄贈された．しかし水島氏はこれを十分研究する間もなく亡くなられ，このコレクションはほとんど知られることなく時が過ぎていた．水島氏の学生であった著者は同氏の志を継ぎ，10年ほど前から調査を開始．ヨーロッパにある関係標本も参照しながら，植物名の同定とメモの解読，地名や関係者の特定に努めてきた．本書はこれ迄の成果をまとめたもので，作成者が特定された標本について記している．人物としては，シーボルト，ビュルガー，ピエロー，小野蘭山，水谷助六，伊藤圭介，大河内存真，平井海蔵，桂川甫賢，美馬順三，中山作三郎，熊吉，マキシモヴイッチで，標本一枚ずつについて記録の詳細を挙げ，判定の根拠を示している．また伊藤圭介，平井海蔵の標本帖については，合計1,331点におよぶ標本ラベルが，その植物名と著者の見解を併わせてリストされている．中には，切り離されて外国の標本室で発見されたものも含まれている．「シーボルトが残した資料整理紙」という見出しの下には，彼が標本一点ずつの情報を整理するために作った，いわばデータシートが紹介されている．この整理紙は一点につき72項目あり，略字や記号が用いられており，それについての暗号表に当たるものが別な方面から見つかっているという．当時の欧州人の記録・整理の手法を知る手がかりになるだろう．

分子系統解析が流行の今日，こういう地道な調査研究にかかわる者は少ないが，変貌しつつある自然の唯一の代表であり，かつ今日の情報交換の元になる植物名の基礎となる標本資料の検討は，枚挙生物学を軽蔑する人たちでも結局はそれを頼りにするほかはない．著者の地道な努力に敬意を表すると共に，一層の進展を期待する． (金井弘夫)

□加藤僖重，加藤英寿，木原　章，若林三千男（編）：**牧野標本館所蔵シーボルトコレクションデータベース CD-ROM 版** 14 pp. 2005. ￥1,500. 14 × 13.5 cm. 東京都立大学出版会. ISBN: 4-925235-35-9.

前に紹介した同名の本にかかわる標本資料2,675点について，画像とデータを収録し，検索機能をつけたものである．最初6頁は前記書籍の簡単な紹介で，残りは使い方の記事である．CD-ROM はハードカバーの中に納まっている．ウィンドウズ，マッキントッシュ，UNIX のいずれにも対応できる．少なくとも Windows-XP では問題なく閲覧できる． 標本箱，科名，和名，学名，標本番号などについての基本的検索のほか，人名，地名などでも関係標本を呼び出せるようになっている．普通なら容易に見ることのできない貴重標本を自由に検索・閲覧でき，かつ転送も可能にしてあるので，たいへん利用価値の高い情報源である．都立大学は最近の組織変えで変貌したと聞いているが，こういう貴重資料を含む標本室の運営に，十分な配慮がなされることを期待したい。 (金井弘夫)